

馬渡の眼 13

居場所の大人にできること - 子ども食堂篇Ⅳ -

馬渡 徳子

前篇にてご紹介したフィンランドに留学した金沢大学の学生が帰国し、子ども食堂で報告会を行った。

当日は、当県にもインフルエンザ、コロナ、アデノウイルス、溶連菌感染症、水痘が同時流行しており既に学級閉鎖が多発して

学生ボランティア

きたむらかずきの フィンランド体験記

令和5年10月2日(月) 18:20~18:50

えがお会館大ホール



寺子屋えがお





いたが、44名の参加者で賑わった。

全編クイズ形式での参加型の展開で、子どもたちも大人たちもわくわくしながら学ぶことができた。また、質問や意見・回答は挙手をするか、スマホやタブレットでQRコードを読み取りメールで送信する手段を選択できるように、更に事後にサイトにつなげて探求学習ができるように工夫がなされていた。

保護者や大学生ボランティア以外の大人たちにとっては、受講者それぞれのやり方で質問や意見が反映されて見える化されていくこの技法はととても新鮮で、子どもたちが主体的に参加していく様子を観て、目をパチクリだった。

子どもたちからは、①白夜など気候や風土がかなり異なるが、どんな日常生活をおくっているのか、②どんな食べ物を食べているのか、③学校生活の様子を観て面白かったこと、④印象に残った街中の風景について。

大人たちからは、①病気や障がいのある子どもへの配慮、②若い女性の議員さんが多いと報道されているが、魅力的な仕事な

のか、③小学校から大学・大学院までの学費や給食費は?等の質問があった。

驚きの声があがったのは、プレスクール(就学前教育学校)から大学院までの教育費が全額無料で、教材費・給食費・通学費も無料とのことでした。

また、学習形態は1クラス20人程度の少人数で、関心事による選択授業や学年を超えた縦割り授業が多くあること、「子どもたちが先生の力をかりて自分で見つけた課題を仲間とともに探求していく」という理念があること、読解力やリサーチ力、ディスカッション力、プレゼンテーション力を育てているとのこと。

街中では、購買力や競争を刺激するような広告表示やバックグラウンドミュージックが一切なく、スーパーは広々とした通路で個人のペースで買い物がなされており、日本との違いに驚いたそうです。

課外活動においても、「子どもが主人公、子どもが参画することを、常に大人が意識している」、家庭でも学校でも、「子どもたちに対してあなたは思うの?という問いが日常にある」との応答には、大人たちは自

分たちをふりかえる機会となりました。

そこで、直近の運営会議では、「早速に気付きを実行しましょう!」と、12月のクリスマス会からは子どもたちによる実行委員会形式で大学生ボランティアとともに実施することになり、2カ月かけて準備中です。どんなクリスマス会になるか、とても楽しみにしている。

運営会議の夜は、見事な名月でした。
今号の短歌です。

名月や
地球を照らし
願いしは
誰にも○で
ありますように

おそまつでした。

